

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

***芸術的オブジェに使えると思える工作物2点を収蔵**

筆者は国立天文台野球部の現役選手である。グラウンド脇に天文台で不要になった廃棄物の保管場所がある。ここに捨てられるものは種々雑多である。野球の練習に出た際、この廃棄物置き場を眺め、天文台の歴史的なものとして残しておきたいものが捨てられないかという目で眺めている。今回、ステンレス製の工作物が捨てられており、実験に不要になって捨てられたようだが、何となく置物として芸術に見えるものが2点(写真1)あり、とりあえず拾っておいた。

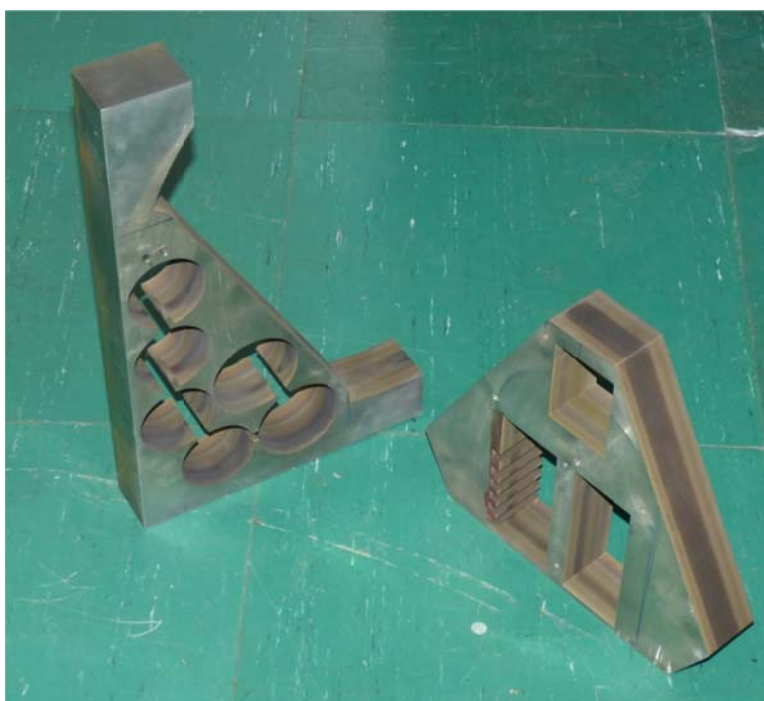


写真1 芸術品に見えませんか

厚さが 54.5 mm、左の背の高い方は 54 cm、重量が 14.5Kg 右の背の低い方で 28 cm、重量が 16.5Kg あり、相当な重量物である。これらは実験治具として製作されたもので、実験が終わればただのゴミかもしれない。しかし、筆者には何となく芸術作品に見えるのである。何しろステンレス製だから資源ごみとして売ればかなりの額になるのではないかと思えるが、筆者はとりあえず、オブジェとして保管しておこうと思う。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp